

高住宮ノ谷遺跡 たかすみみやのたにいせき

& 高住牛輪谷遺跡 たかすみうしわだにいせき



今年度の調査範囲（上が北）



〈4区〉第2面検出状況写真（北から撮影）

手前に見える小さな白丸は柱などの穴の痕跡です。昨年度の調査成果（囲いの右側）と合わせるとひとつの建物になるかも！

高住宮ノ谷遺跡、発掘調査スタート！

4月13日から今年度の高住宮ノ谷遺跡の発掘調査が本格的に始まりました。

今年度は、3区と4区の調査を行います。このうち3区は昨年度調査した谷の部分を中心に掘り下げて、古墳時代より古い時期の調査をします。

4区は、古墳時代終わり頃から中世までの掘立柱建物跡などが見つかった箇所に隣接するので、それらの続きが発見される可能性が大いにあります。

なお、高住宮ノ谷遺跡の発掘調査は、夏前までの短期決戦！集中してガンバります p(^o^)q

鳥取西道路の遺跡を掘る！

第73号 2015年5月22日

第60号に掲載した「山陰道の今昔」の第二弾です。今回は奈良時代から江戸時代、そして現在に至るまでの山陰道の移り変わりについてお話ししました。

今回は「古代山陰道」（奈良・平安時代）にスポットをあてます。



山陰道の今昔～その2～

古代山陰道は、奈良または京都の都と因幡や伯耆、出雲といった国々の国府を最短ルートで結ぶ官道です。道幅は10m前後あり、とても立派な直線道です。都からの命令や緊急伝達事項を、各国の国府に迅速に伝えるためにつくられました。そのために、約16kmごとに駅家（うまや）が設置され、駅使（えきし）とよばれる都からの使者は、駅家で管理されている駅馬（えきば・はゆま）を乗り継いで、山陰道を往来していたのでしょう。また、租税を地方から都へ運ぶためにも利用されました。

古代山陰道の可能性が高い道路遺構は、県内では鳥取市の青谷上寺地（あおやかみじち）遺跡などでみついています。古代山陰道の造成には、丘陵を切り通したり、低湿な土地には盛土を施すなど、大規模工事が行われたことがわかっています。現代の道路は大型の重機を使用して作られますが、当時はすべて人力。官道を造成したり、道路の補修などの維持管理を行うのは、大変な重労働であったと想像されます。今年度、当財団が発掘調査を実施している大橋遺跡や松原田中遺跡は古代山陰道推定ルートの近くに位置し、奈良・平安時代の遺構や遺物が見つかっています。これらの遺跡周辺に暮らしていた当時の人々が、中央政府の指示のもと、古代山陰道の造成や維持管理の役割を担っていたのかもしれませんが。

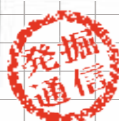


古代山陰道のルート



盛土で造られた山陰道（青谷上寺地遺跡）

鳥取県埋蔵文化財センター提供



当財団が担当する鳥取西道路関連の発掘調査が始まり、遺構や遺物が姿を現しつつあります。

発掘情報については、今年度も広報誌やホームページでいち早く皆様にお知らせしたいと思いますので、どうぞご期待ください。

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

(公財) 鳥取県教育文化財団 調査室

〒680-1133 鳥取市源太 12 番地

TEL：0857-51-7553 FAX：0857-51-7550

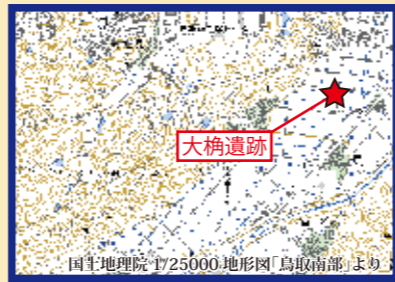
メールアドレス：tottori-kyobun@kyobun.sakuratan.com

HP：http://kyo-bun.sakura.ne.jp/chosasitsu new.htm



大楠遺跡

だいかくいせき



6区では、調査区の西端で大きな柱穴を2つ検出しました。規模は直径約1m、深さ0.8mで、底には自然石の礎板そばんが敷かれていました。

4区では、弥生時代後期から古墳時代前期（およそ2,100～1,700年前）の川の跡を調査しています。そのうちの1本には、杭が大量に打ち込まれていました。しかし、この杭がどのような役割をしたのかはわかっていません。川岸を補強するため…？魚を追い込むための仕掛け…？

調査担当者は日々頭を悩ませています(;O;)

しかし、この柱穴と対になるものは、検出できていません。建物の柱でなければ、いったいなんのための柱だったのでしょうか？



杭がたくさん打ち込まれています！



1-2区では、現代のほ場整備で掘り返された土の中から、ある石器が出土しました。その名も有舌尖頭器ゆうぜつせんとうき（または有茎尖頭器ともいう）！

長さ約13cmで、とても残りが良いのですが、なんとこの石器、縄文時代草創期（およそ13,000～10,000年前）を代表する遺物なのです。狩りに使う槍の先端部分として使っていたのでしょうか。

調査を始めて1ヶ月程、はやくも鳥取県でも大変珍しい有舌尖頭器の大発見でした(((;`Д´))) あひゃー！

次はいったい何が分かるのか、楽しみに！



1-3区では、現代の田んぼの土の下から、いきなり奈良時代（およそ1,300年前）の掘立柱建物跡が姿をあらわしました。その柱穴には、柱の根元やそれを支えた石が残っているものもあり、「立派な建物があったのかも」と考えさせられました。(・`д´・;) ヽ／ヽ／ヽ／

昨年度調査した1-1区では、これより新しい平安時代（およそ1,200～1,100年前）の掘立柱建物跡が多くみつき、有力者の屋敷地があったと考えられます。

この地は、長きにわたって地域の中心地となっていたのでしょうか？興味は尽きません。



白く囲んだ部分が柱穴です

松原田中遺跡

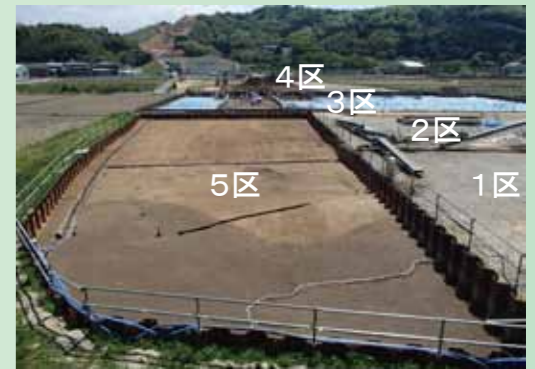
まつばらたなかいせき



吉岡温泉IC予定地の松原田中遺跡では、西から順に1・2・3・4区、1・2区の北側を5区として調査を進めています。すでに1・2・4区の現地調査は終了し、今年度は3区と5区が対象です。そのうちの5区では、これまでに2つの遺構面を調査しました。左上の写真は近世後半（およそ300年前）以降と推定される耕作溝の残る面です。溝群が西北西—東南東にのびることから、周辺にひろがる現代の水田と同じ地割で耕作されていたことがわかりました。

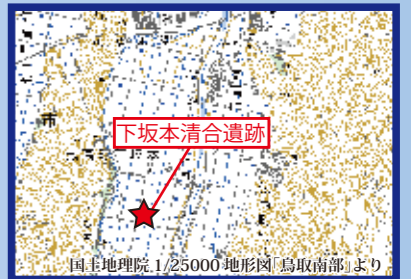
右下の写真は古墳時代後期（およそ1,500～1,400年前）以降の面ですが、右手前の一段低くなった部分以外には遺構が見つかりませんでした。しかし、南側（写真の右側）の1・2区では、掘立柱建物をはじめとして、溝や大小さまざまな穴などがみつかり、集落があったと考えられます。今回調査した5区はそれらよりもわずかながら北に向かって低くなっていたこともあり、集落の外側にあたるかと推定できます。

このように遺構や遺物が無いということも大切な情報です。



下坂本清合遺跡

しもさかもとせいごういせき



シャベルでホイ、せっせこホイ



土管



掘り出した土管の山



左上の写真は、水道工事をやっているの？ それともガス管工事？ いえいえ、間違いなく発掘調査のようすです。

発掘調査区はもとは田んぼだったところで、地面の下には「暗渠」といって、水はけをよくするための排水溝が張り巡らされています。この暗渠を掘り返して、中に埋められている土管を取り出しているのです。

この土管は長さ約60cm、直径10cmの陶器製ですが、踏んでも落としても割れないくらい固いものです。今から30年ほど前に、付近一帯の田んぼの圃場整備ほじょうをしたときに埋められました。つまり、この土管は現代のものなので、古い時代のものと混ざらないように、しっかりと取り除いておかなければならないのです。この3か年の発掘調査で、なんと！およそ3,000本もの土管を調査区内から掘り出した計算になります（左下写真）。